

社会教育委員視察の報告

12月上旬に滝上町社会教育委員による社会教育施設の視察を行いました。

今回は「郷土館」「たくみ館」「駅舎記念館」を視察してきました。視察を行う

目的は、社会教育係が所管している施設の現状、今後の活用策、改善点などを話し合うために、委員が直接現場を訪れて、協議するためのものです。

今回の視察をとおして、委員からは「実際に現場を訪れてわかるところがあり、文字や数字だけの情報以外の情報を得ることができた」、「施設の目的は何なのか。町内（町民）向けなのか、町外（観光客）向けなのか。施設に専門の人がらしてPRや体験じゅべんと良い」、「子どもが喜ぶ施設でもあるし、昔入ったことがあるけども、数十年ぶりに訪れて違った良さを認識できた」などの意見があり、今後の施設運営の方向性を委員と事務局（教育委員会）で考えることができました。



←
郷土館の視察風景

たくみ館の視察風景

← 駅舎記念館正面入口で記念撮影

小栗 EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

ばね秤
(ばかり)

物の重さを量（はかる）道具有には、いろいろな種類の秤（ばかり）がありますが、この写真の物は「ばね秤」です。二重の丸い筒の中に「ばね」が入っていて、下の銅（どう）に量る物を下げる。すると、ばねが伸びて釣り合つたところの目盛（めもり）が物の重さです。黄（おう）多く使われた梃子（てこ）の原理（げんり）を応用した棹秤（さおばかり）※棒秤ともいいます。は、目盛を付けた棹の片方に紐（ひも）を付け、そこを支点（してん）にして先に量る物を下げ、もう一方に重り（分銅）を掛け、これを左右に動かして棹が水平になつた（釣り合つた）ところの目盛を呼んで、重さを量ります。重い物を量る「一人掛けの大型」のものから、家庭での日常用の小型のもの、さらに砂金を量る、ごく小さいものまで、広く用いられました。

棹秤の外にも、台秤（だいばかりり）、皿秤（さらばかりり）、薬局で使われた精密な天秤（てんびん）などがあります。どれも分銅の位置を左右に動かしたり、分銅を増減（ぞうげん）して釣り合いをとり重さを量るものです。ばね秤は量る物を下げるたり載せるだけで、重さが表示されるので使いやすく、魚屋さんや行商の人用に用いられました。魚のえらぶたに鉤（はり）をかけて、ヒヨイと秤を持ち上げて量つていきました。ばね秤も、ばねの伸びを丸い目盛盤（めもりばん）の針の動きに変えて、量る物を皿や台に置くだけで針がその重さを示す秤が一般的になりました。

郷土館には、色々な秤があります。それぞれで何を量つたのか想像してみてください。



丸い目盛のばね秤をお持ちの方で、もう使わないという方がおられました
ら、郷土館にご寄贈をお願いします。

↑郷土館に保存されている
「ばね秤」の写真